

能力伸長・生田メソッド=高い目標×文武両道・文理両道×自学自習×協働×ICT
○「不確実な時代」を確かに生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」の育成
○「複雑な時代」を解き明かす「協働」の前提たる「主体的な意志のある自立した『個』」の育成

基礎と応用。応用とは、「基礎を応用」するわけですから、応用力の錬成を通して、固めたはずの基礎に立ち返り、さらなる基礎強化がなされます。「応用力錬成を通した更なる基礎強化」であって、「応用力錬成を通した基礎固め」はあり得ません。誤解のないようにしてください。しかし、後方からのスタートに焦ってしまうと、その「あり得ない」ことをしてしまいます。そんなことをしたら、何も身に付かず、「私の二の舞」になります。「急がば回れ」です。基礎を固めてください。近道はありません。王道を貫いてください。

思考力が問われる出題がなされます。うろ覚えは、「点」にはなりません。「確かな知識」「使える知識」、つまり、「思考に昇華する知識」にしなければなりません。しかしながら、スタートラインとしては、うろ覚えがあった方がないよりはましです。幸いにも、皆さんの脳には、たくさんのおうろ覚えがあります。一つひとつのおうろ覚えをうろ覚えでなくし、「思考に昇華」させてください。「急がば回れ」「王道」です。

グ リ ッ ト G R I T (やり抜く力) II

計画を立て、その計画に基づいて実行し、必要に応じて計画を修正しながらも、ついには目標を達成する力。これが、第5号から引き続きのテーマ、「G R I T (やり抜く力)」です。課題を意図的に洗い出し、課題を克服するために必要な意図的な方法を選択し、それを実行する力。それがG R I Tです。

G R I Tは伸び続けます。しかし、G R I Tの向上は、粘り強く実行し続けた時間に比例しますので、短期間で劇的にG R I Tが向上するということはありません。

で、G R I Tの低い私はどうしたかということ、「目標(なりたい自分)を持って一歩踏み出す」。その一歩が目標に近づいているかどうかは自覚できない。しかし、目標(なりたい自分)があって、一歩踏み出せば、それは必ず目標に向かっていきます。それは、私の経験から断言できます。そうやって、多少なりとも、私は、私自身のG R I Tを意図せず、向上させたのだと思っています。(そこから、私は、「とにかく何かを始めよう」と言い続けているのです。)

皆さんは、いずれ世に出ます。実社会では目標を立てることと目標を達成することが必ず求められます。そのとき、適切な目標が設定できるように、適切な計画を立てられるように、計画を確実に実行し目標を達成できるように、ま

ずはそれぞれの一步を踏み出しましょう。「私のようなやり方」から非常にきつい「意図的な方法」まで、現時点での自分に合ったそれぞれの方法を選択し、目標に向かって行ってほしいと思います。

唐突ですが、読書について書きます。

読書は、個別の課題を克服するための意図的な方法としては、優れた方法とは言えません。しかし、そのことをもって、読書の素晴らしさが否定されるわけではありません。読書は、課題克服とは無関係に、素晴らしい力を読む者に与えてくれます。

一流と呼ばれる人たちは、ほぼ例外なく「読書家」です。私の読書は「積読（ツンドク／積んで置く）」「斜め読み」。ですから、私は一流ではありません。しかし、皆さんには、「一流」を求めます。「出藍の誉れ」です。

読書の素晴らしさは、獲得される知識量、磨かれる感性も然る（さる）ことながら、G R I Tを向上させてくれることにあります。読書家は勉強好きです。読書を通して、知的好奇心が向上し、知的興奮・知的充足感を経験することで勉強好きになります。私の読書は必要に迫られた「斜め読み」ですが、皆さんは「読破」してください。何を読むかではなく、「読破」することが大切です。読破して、読破して、G R I Tを向上させ、知的興奮・知的充足感を経験し、「読書家」に、つまりは「勉強家」になってください。勉強家であること、これは先行き不透明な「不確実な時代」を生き抜くための「確かな能力」です。

もう一つ、皆さんにお奨（すす）めするのは「書くこと」です。文章が書けないと、どんな方面に進もうとも、世に出てから、力を発揮することはできません。「書く」の前提は「わかる」です。「書ける」ということは「わかっている」ということです。「わかっている」のに「書けない」ということはありません。「書けない」のは「わかっていない」ということです。ですから、「書けなければ＝わかっていないければ＝力がなければ」、力を発揮できるはずがありません。「書く」ためには、「情報」を活用して、「思考・判断」します。「書く」ことで、「思考・判断」が深まり、情報が知識化し、「知識」が定着します。そして、「書くこと」でG R I Tは向上します。（「書くこと」、これだけは多少なりとも、私はやっている。こうして今も書いている。）

さあ、皆さん、やり抜いて、やり抜いて、「やり抜く力（G R I T）」を鍛えてください。そして、幸せになってください。

- 模擬テストの復習、定期テストの復習は、必ずやってください。定期テストの試験範囲の中には、しっかりと理解した部分と短期記憶として詰め込んだ部分があるはずですが、短期記憶は、そのまま放っておけばなくなります。それはもったいない。復習することで、詰め込んだ知識（消えかけた記憶）を「しっかりと理解」に換えてください。
- 模擬テストを終えると疲れます。それほど集中して解いたということですが、集中して解いた問題を復習することで一気に理解が深まります。いずれ、結果が返って来ますが、しっかりと復習したあなたは、もはや、あのとき（模擬テスト受験時）のあなたではありません。復習してください。
- 受験生の皆さん。意図的に受験をやり抜いてください。現役生が最も伸びるのは、最後の模擬試験終了後、年が明けてからです。現役生は、試験最終日まで伸び続けます。焦らず、じっくりと、意図的に学習してください。